

## ルクセンブルク経済・金融（2019年6月とりまとめ）

### 1 統計関連

- 5月のインフレ率は年率2.07%（前月2.13%）（7月3日付統計局プレスリリース）
- 5月の失業率は5.5%（前月5.4%，前年同月5.5%）（6月20日付け統計局及び職業安定所プレスリリース）
- 当国統計局（Statec）によれば、現在の世界的経済不況にも係らず、当国は今後二年間にわたってGDP成長率は年率3%の見込み。当国のGDP成長率は、2018年は3%から2.6%へと下方修正、2019年も3%から2.7%へ下方修正されている。これは、非金融業の不況が原因である。一方で、2020年には3.3%の成長予測が成されており、これは、当国外からの需要増加によるものと見込まれている。（6月6日付 Luxembourg Times 紙）
- 当国はEU初の高性能コンピュータ（supercomputer）を、欧州委員会のために導入することとなった。当国が法的及び金融的枠組みの本部となることが決まったことを受けて、高性能コンピュータの当国への設置が決まった。EUは現在、世界全体のスーパーコンピュータ資源の29%を利用しているが、EU内の産業によってまかなわれているのはわずか5%である。当国への設置によってEUの、世界的なデジタル面での変化について行く事、そしてEU外に依存しない事の二点の目標実現に貢献できる。更に、他にもブルガリア、チェコ、フィンランド、イタリア、ポルトガル、スロベニア、スペインもスーパーコンピュータの設置を行う予定。（6月7日付 Luxembourg Times 紙）
- 欧州統計局（Eurostat）によれば、当国居住者の旅行は42%が飛行機によるもので、マルタ（63%）、キプロス（49%）、アイルランド（43%）といった島国と並んで、EUトップの割合となった（EU平均は17%）。一方で自動車を利用した旅行は48%と、EU平均の64%を下回った。更に、旅行時の平均的な日数は、当国は7泊とギリシャ（10泊）に次いで高くなった（EU平均は5泊）。なお、EU居住者の73%が国内旅行を選ぶ一方で、当国は98%が海外旅行に行く。（6月7日付 Luxembourg Times 紙）
- 当国政府の不動産市場分析部門（Observatoire de l'Habitat）によれば、ルクセンブルク市における不動産価格は2008年から2018年の間で90%上昇し、ほぼ2倍となった。2008年の平均価格が一平米あたり4,258ユーロであったのに対し、2018年では新築で8,431ユーロ、既存のアパートだと8,257ユーロであった。当国の不動産物件の不足を解消する為に、今後は追加で年6,500軒の物件が市場に導入される必要があるが、うち4,100軒は新しく当国に移住してくる人々の需要を満たすのに用いられる。（6月29日付 Luxembourg Times 紙）

## 2 政府等関連

● EUの規定で求められている、企業の所有者を明示化し登録する作業において、当国にある129,000社のうち7,000社が登録を終了させている。これは、透明性を向上させることで、マネーロンダリングを防止する目的がある。なお、この「所有者」「オーナー」は実質的支配者 (beneficial owner) を指しており、25%以上の株主や、マネジメントあるいは投票権を通して企業の運営指針を実際にコントロールできる者を指す。登録の締め切りは8月31日。(6月21日付 Luxembourg Times 紙)

## 3 企業関連

● 当国労働省によれば、Belval と Differdange の二カ所にある、製鉄企業アルセロールミタル社の工場から、計260名の雇用が失われる。ケルシュ労働相は、同社の二カ所の工場は今後5年間にわたって、競争力向上のための改装を行うが、その際に生じた早期退職や定年退職等によるもので、同社は空いたポストの新規雇用による穴埋めを行う予定ではないからだとした。同社の競争力の向上は、近年における生産価格の上昇と中国等による国際競争の激化に対応するものである。なお、同社はこの件について、肯定も否定も行っていない。(6月6日付 Luxembourg Times 紙)

● 当国の国立鉄道企業 (CFL) は、「transformation plan」を打ち立てており、ルクセンブルク市の渋滞緩和のための鉄道プロジェクト (4億6,200万ユーロ) を執り行ってきた。2013年に完成する予定であった同プロジェクトであるが、建設に10年を要しながらも、ついに開通することとなった。一つ目ルクセンブルク市とサンドバイラー・コンテルン (Sandweiler/Contern) 地区を結ぶ直通便、二つ目は中央駅付近の Pulvermuhle を通る鉄道便である。このプロジェクトの最大の試練は利用人数の急激な増加であると CFL 社は述べており、新しいインフラ設備を用いて、順調な鉄道交通環境と、時刻表通りの運航を計るとしている。(6月12日付 Luxembourg Times 紙)

● 当国国立貯蓄銀行 (BCEE : Banque et Caisse d'Epargne de l'Etat/ Superkeess) は、当国で初めて、クレジットカードの磁気リーダー (黒い部分) をオフにする機能を導入することを決定した。この部分はカードの情報が保存されており、最も脆弱な部分である。但し、ヨーロッパでは基本的にチップからの直接的な読み込みがされている。また、オフ機能だけでなく、カードの一時ブロック機能を導入することで、イーコマースの利用、ATMでの引き落とし、ヨーロッパ外でのやりとりなどを制限することで、カードの安全性を向上する目的がある。(6月14日付 Luxembourg Times)

● Oaktree 社によって所有されている、ファンドサービスプロバイダーの Pro Service Finteco 社は、競合相手であるルクセンブルク系企業 Moventum 社を買収する見込み。なお、買収後も少なくともルクセンブルク市場では Moventum というブランドは維持する予定である。(6月24日付 Luxembourg Times 紙)

● 当国の五大銀行は以下の通り。(1) BCEE (資本: 461億ユーロ, 前年比5億ユー

口増), (2) BGL BNP Paribas (資本: 429億ユーロ, 前年比45億ユーロ増), (3) Societe Generale Bank and Trust (資本: 416億ユーロ), (4) Deutsch Bank (資本: 307億ユーロ, 前年比70億ユーロ減), (5) BIL (Banque Internationale Luxembourg) (資本: 255億ユーロ)。なお, 当国銀行業全体の利益は8% (4億4,600万ユーロ) 減であり, インフラ設備や規制, インデックス制度 (2.9%の賃金上昇) 等によるコストの上昇が原因である。(6月28日付 Luxembourg Times 紙)

#### 4 大臣等動向 (以下政府広報)

- 3日-4日 グラメーニャ財務相, 金融ミッションのためマドリッド (スペイン) を訪問。
- 5日 ベッテル首相, 第二次世界大戦の D デイ 75周年記念式典への参加のため, ポーツマス (イギリス) を訪問。
- 25日 ベッテル首相及びブラッツ司法相, 在ポルトガル・ルクセンブルク大使館主催の, ルクセンブルク国慶節レセプション参加のため, リスボン (ポルトガル) を訪問。
- 26日-27日 シュナイダー経済相, 宇宙企業サミット (Space Enterprise Summit) 参加のため, ワシントン (米) を訪問。

※当国政府の公開資料や各種報道などの公開情報を取りまとめたもの